

## 平成25年度 第3回 技能労働者の技能の『見える化』ワーキンググループ議事概要

1. 日時： 平成26年2月28日(金) 13:30～15:30

2. 場所： 経済産業省別館1階114号会議室

3. 出席者(五十音順、敬称略)： 野城座長、天本委員、蟹澤委員、國枝委員、越塚委員、幸保委員、白石委員、滝沢委員、田口委員、綱田委員、花山委員、松井委員、森委員、柳委員、山口委員

### 4. 議題

- (1) 技能労働者の技能の「見える化」システム基本計画の決定
- (2) 平成26年度の作業スケジュール

### 5. 発言要旨

#### (1) 技能労働者の技能の「見える化」システム基本計画の決定

資料について事務局から説明

- このシステム構築は初めての取り組みとなるので、手戻りもある程度想定したスケジュールを考えた方がよい。
- 運用の設計はかなり重要な作業になると思われる。システム以外に運用プロセスの設計の検討を行う場を設けるべき。
- 国がソフトウェアを開発するのであれば、これをオープンソースとしてコードを公開する方法もある。ただし、セキュリティが重要であるので、これに関係する部分について十分に検討する必要がある。
- システム構築及び運用のなかで、国の関与、各業界団体の関与について、もう少しイメージとして示してもらった方がよい。
- これらの提案事項については、基本計画書に「5. アペンディックス」を追加し、来年度以降に詳細に検討すべき事項として記載してはどうか。
- ご指摘については、非常に重要な課題であると認識している。来年度は要件定義として詳細な分析を進めていく計画であり、その中で決めなければならない事項となるためしっかりと記載しておきたい。
- 公的データベースと連携を図るためには、他省庁との関係もあるため国土交通省に調整いただくしかな

いと考える。

○厚生労働省等の他省庁のシステムともリンクできるよう、システムを構築してもらうことが重要である。

○来年度に要件定義を検討する際に、公的データベースとの連携について十分検討する必要がある。

## (2)平成26年度の作業スケジュール

資料について事務局から説明

○運用手順について、WGとシステム検討タスクチームのいずれで検討する事項であるかを切り分けることは難しいため、WGとシステム検討タスクチームの間で必要な検討が抜け落ちてしまうようなことが生じないように注意すること。

○システムの開発側からすれば、業務手順を明示してもらわなければ、設計ができないというケースが、開発を始めた後にも生じることがあると思われる。設計段階で、前提条件が不明確であり設計ができないとの指摘があった場合に、WGとタスクチームの重なるの部分で扱っていただきたい。

○初めての取り組みであり、業務手順を決める側としても、どうすればよいかわからないということもあろうから、まずは、プロトタイプシステムで検証してみることであろう。手戻りは大きいと思われるので、その部分も大きめに見込んでおく必要がある。

○当初は多少粗い仕様でもまず構築してみて、試行をしながら仕様を固めていくというイメージで作業が進めれば良い。

○出来上がったシステムを見ると、新たな改善点が見えてくるのではないかな。

○そういう期間を見込んで、スケジュールを立てるべきである。

以上